

「食品に関するリスクコミュニケーション（東京）」
BSE そのリスクと対策を改めて考える
アンケートの集計結果

開催日：2004年10月29日（金）

参加者数：153名 回答数：70名（回答率45.8%）

- 問1 ご自身について、ご回答ください。
- | | | |
|-----------------------|----|-------|
| 1) 消費者団体 | 10 | 14.3% |
| 2) 無職（主婦、学生等） | 4 | 5.7% |
| 3) 生産者 | 1 | 1.4% |
| 4) 食品関連事業者（加工、流通、販売等） | 27 | 38.6% |
| 5) マスコミ関係者 | 3 | 4.3% |
| 6) 行政関係者 | 9 | 12.8% |
| 7) 研究・教育機関（食品関係） | 2 | 2.9% |
| 8) その他 | 12 | 17.1% |
| ・ 牛肉大好き一個人消費者（1） | | |
| ・ 商社（1） | | |
| ・ 飲食店様向け備品販売（1） | | |
| ・ 食品安全委員会モニター（1） | | |
| ・ 外食（1） | | |
| ・ 会社員（1） | | |
| ・ 羊腸（天然ケーシング）輸入団体（1） | | |
| ・ スポーツ団体役員（1） | | |
| ・ 団体職員（1） | | |
| ・ 業界団体（1） | | |
| ・ 無記入（2） | | |
| 9) 無回答 | 2 | 2.9% |
- 問2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。
- | | | |
|--------------------|----|-------|
| 1) 食品安全委員会のホームページ | 32 | 45.7% |
| 2) 食品安全委員会からのご案内資料 | 16 | 22.9% |
| 3) 関係団体からのご案内資料 | 17 | 24.3% |
| 4) 知人からの紹介 | 5 | 7.1% |
| 5) その他 | 2 | 2.9% |
| ・ 農水省のメールマガジン（2） | | |
- 問3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。
- | | | |
|---------|----|-------|
| 1) 評価する | 26 | 37.1% |
|---------|----|-------|

2)	やや評価する	29	41.4%
3)	あまり評価しない	10	14.3%
4)	評価しない	2	2.9%
5)	無回答	3	4.3%

評価理由

- ・ 科学的な安全と安心のレベルを一致させることの難しさを感じました。
- ・ 消費者と海外の専門家とが意見を交換することは大変有意義であったと思う。もし機会があれば、海外の消費者や業界との意見交換の場も作ってほしい。日本の消費者も、海外の消費者の話の聞けば納得するのではないか？
- ・ あまりにも会場の声をひろう時間がなさすぎ。何もいってないのに20ヶ月とかどーか、ひとり歩きし、たいへんキケンな会になっていき、憤りを感じた。次回の反省へと必ずつなげてほしい。
- ・ 大変な作業ですが、意見を交換し、考え方を出していく場をつくることは今までなかったことです。感情的にならず、冷静に討議することに早く日本人は慣れることが必要だと思った。
- ・ 時間の配分、全体の長さにもう一工夫が必要。
- ・ 氏の話は無意味。BSEの科学的対処についての知見を聞きたいのに、こんな話をするために日本に招いたことに腹が立つ。専門家の検知技術の開発とか、BSE発生メカニズムの知見とかの研究が重要。
- ・ 消費者団体代表は、何が何でも輸入反対との感じですが、今の時代の限界のSRM除去でよいから肉欲しい。
- ・ もっと時間が必要。消費者団体もいろいろあります。別の代表も出席さすべき。
- ・ 新しいEU内の知見。
- ・ 十分な意見交換の場になっていない。リスコミは情報提供が中心で会場からの質問に十分答えていない。
- ・ BSEは何かというのはわかったが、結局解決策が見つからず輸入再開にはほど遠い。日本はまだまだ混乱しますね。
- ・ 日本以外の国々でBSE対策にいろいろ努力されているのがよく理解できた。
- ・ いろいろな業種に意見発言できるように考慮して欲しい。
- ・ さまざまな考え方を把握することができたから。
- ・ 日本に於けるBSE対策は独善的であり、世界共通の課題に関係国の対策を直接聞けることは大いに意義がある。
- ・ 非常に科学的でよく判った。
- ・ 日本は税金のむだ使いが好き。日本の全頭検査、3年も続けずすみやかにやめて、世界の常識30ヶ月、サーベイランスにすべきということがよくわかった。

- ・ コーディネイトが良くない。議論の流れが見えないし、議論がかみ合っていない。コーディネーターがBSE問題を詳しく理解していないように見受けられた。
- ・ 「具体的な対策」(日本の)が確定しないと話が次に進まないと思う。仮説(対策の)にもとづく検証スタイルをとってほしい。話がとっちらかってしまってまとまっていない。
- ・ 各国の対応が参考となった。
- ・ 海外でのBSE対策、研究についての科学的アプローチが良く理解できる。
- ・ 演者の言動が明快で、自信にあふれている。
- ・ 2年前のBSE問題発生より、全頭検査によって国民が安心しているのに、なぜ今になって変更する必要があるのか。アメリカからの圧力としか考えられない。
- ・ 3人の別な角度のとらえ方を伝えた点。
- ・ Risk communicationの司会者が“米国産再開”を“非常に不安がっている”とRisk communicationがへんな世論を作り、マスコミが報じ、あまり本件を知らない消費者がうのみにする。こんな構図があるうちは、いつまでもDOUBLE STANDARDが続く。
- ・ 今回の内容は非常に評価出来るが、何故もっと早い段階で行わないのか納得できない。第2部ではコーディネーターがBSEに対する知識がないことで質が低くなった。
- ・ 各国政府の当事者の意見を聞いたこと。
- ・ 講演の時間が短すぎた。新しい情報を求めてきたが期待はずれの感。しかし、日本の消費者がマスコミの情報によりBSE危険度を過大視している状況が実感できた。
- ・ 行政の透明性を確保することが消費者の信頼性向上に+になる力と考えます。
- ・ 国内のかたまっている情報よりも、海外の情報は日本の実態(かたよった考え方)を客観的に指摘してくれる。
- ・ 海外のBSEエキスパートによるプレゼンテーション。
- ・ 議論があまりかみ合っていないように感じる。司会が不手際。
- ・ こちらに情報がないので、こんなものかと思うこと。スチュアート氏はいかがなものか。問題をすりかえていると感じた。
- ・ せっかく呼んだ講師一人一人の持ち時間が短すぎる。参加者の名簿も欲しい。
- ・ 海外で採られた措置を知ることができたこと。日本も大いに参考にすべき。海外で採られている措置によって人に感染していないことが判れば、日本も右にならえで良いと思う。100%完ぺきかどうかの議論はダメにする議論。検査にかかる費用についても重視すべき。
- ・ 中立の立場から迫められていると感じたので。
- ・ 問題点が整理できた。

- ・正しい知識に基づいた認識の必要。いたずらに不安をあおらないで、正しく消費者に伝えて下さい。
- ・パネルディスカッションが下手。もっと下準備（打合せ）をしたら？
- ・BSEに対する疑問、不安が解消された。
- ・EU、ニュージーランドの情勢が理解できた。
- ・十分な意見交換がなされていない。
- ・vCDJはもはや院内感染問題なのに、専門家と呼ばないのか？アメリカは今まで先生方が言われてきた対策を強化しようとしなさい。検出限界があるならば、一番大切なことは飼料管理ではないか？しかし、今年8月に出たEUの評価によると飼料もnot OK、危険部位もnot OK、レンダリングもnot OK、評価は「極度に不安定」、BSEが国内で急速に拡大している可能性が高いということである。国は昔もEU評価を無視してBSE対策を怠り、国の生産者や流通や消費者に大きなダメージを与えたが、又それをくりかえすつもりか？スタンガンやピッシングをしていたら枝肉が汚染されるので、SRM除去だけでは対応できないではないか。タイソン労組を呼んで下さい。現場の声がききたい。日本では、枝肉を汚染するスタニングを行っているがいつ改善されるのか？検査とSRM除去だけに焦点をあてて、飼料管理問題をごまかすつもりだと思った。WHOは感染牛を食物連鎖に入れるなど言っているのだ。もし感染牛がSRM除去だけで安心だというなら、全世界の専門家を集めて感染牛を食べるパーティーでもしたらどうかと思った。食品にゼロリスクがないことはわかっているが、わざわざ何を食べているかわからない感染潜伏牛かもしれない牛を輸入再開するのはおかしい。
- ・外国の例を知るのも必要だが、我が国としてどうするのかの議論がない。
- ・講演者の発表内容にもよるが、いままじ丁寧な説明を頂きたかった(ダニーマシューズ氏について)。

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

- | | | | |
|----|--------------------------------------------------|----|-------|
| 1) | BSEのリスク・対策について理解が深まった | 32 | 45.7% |
| 2) | 講演時間をもう少し長くしてほしい | 19 | 27.1% |
| 3) | パネルディスカッションの時間をもう少し長くしてほしい | 22 | 31.4% |
| 4) | 講演・パネルディスカッションの時間をもっと短くして会場参加者との意見交換の時間を多くとってほしい | 20 | 28.6% |
| 5) | 諸外国におけるBSE対策の変遷は日本の対策についても参考になると思った | 36 | 51.4% |
| 6) | もっとわかりやすく簡単に解説してほしい。(まだまだ難しく理解しにく | | |

い)		7	10.0%
7)	今回のように海外の情勢がわかるような講演会や意見交換会をもっと企画してほしい	35	50.0%
8)	講演資料がわかりやすかった	15	21.4%
9)	意見交換だけではなく、もっと内容について議論することが必要だ	9	12.9%
10)	その他	12	17.1%

- ・ Q & A が同時通訳を介してなので、A が一致しにくくわかりにくいのはやむをえないのかなと思う。
- ・ 欧米の方が B S E に対して冷静に処理していると思った。日本の全頭検査にかかるコストについて考えさせられた。
- ・ 会場の暴言に対して、きびしく止めるようにして下さい。品がなさすぎる。
- ・ 国民に対する大局的なリスク教育を T V 等で行うことが必要。
- ・ 時間不足！！
- ・ 米国政府関係者の講演も必要だったのではないのでしょうか（時期的にみても）。全頭検査を実施すべき月齢下限が各国で異なる点について、講演にてあまり触れられていなかった。
- ・ 休憩はもっと短く、またはなくてもいいのでは。o r 開始時間を早める、あいさつ等形式ものはなくす等。
- ・ 意見交換の時間が短い。
- ・ 日本はどうか考える場の設定が欲しい。
- ・ 一般人の意見交換のみにしてみてもどうか？
- ・ 画面に言葉を文字にしてほしいと思うことがある。
- ・ 同時通訳にはムリがある。講演内容だけでもあらかじめビデオ化すべき！！
 さんの感じた事を（検査 = 安全ではない）一般消費者に知らせるべき！！

問 5 欧州、ニュージーランドにおける BSE に対する対策についてどのように思われますか。日本における BSE 発生及びその対策とを比較して、お書き下さい。

- ・ 外国の取り組みが違うことがわかった。特に B S E 検査に対する対応の違いを強く感じた。
- ・ B S E の危険がある程度のレベルでコントロール出来ればそれで良いという考えであることが良く判った。日本人の潔癖性とは相いれないと感じた。
- ・ 各国とも消費者は納得しているとのこと。食文化の違いもあるのだろうか。

- ・ 日本の全頭検査は国民の税金のむだ使いである(日本は先進国でGDP比最大の財政赤字である)。最近きのこを食べて亡くなった人がいる。きのこを全部検査した方がよい。国も、農林議員も、全頭検査が安全、安心とってきたが、SRM除去こそが安全を確保できる。食品安全委員会は、はっきりそのことを明言すべき。
- ・ ニュージーランドにおけるBSE対策は今日は話がなかったのでは? 海外と日本の反応の違いは、食生活における牛肉の位置の違いから来るのでは? 魚介類の水銀汚染などは、ここまで敏感にならなかった。
- ・ 日本のBSE対策については、2001年9月以前の重要な問題のもとにすすめられてきたと思います。昨今の状況は、大変消費者にとっては不安を招くものです。重要な問題なので充分時間をかけて、方向を出すべきだと思います。全頭検査、飼料規制、SRMの徹底除去をお願いします。
- ・ スイスの危険部位除去の徹底の体制の説明が欲しかった。ほとんど入手している情報ばかりで、意味のある、役に立つ情報は得られなかった。どういう意図でこのような人選を行うのか、担当者の説明を聞きたいもの。税金のムダ使い。
- ・ 欧州&ニュージーランドとは、日本の生活習慣が違う為、生命に対する考え方が違う。しかし、死亡する率が他の要因の方が多いので、BSEはましであるとの感じがあり、マクダイアミド氏の最終の弁はおかしいと思う。
- ・ 日本は極めて巾がせますぎる。グローバルスタンダードとしての対策は欧州。
- ・ 他国は日本程重要視していないのではないか。日本は輸入国なのでよけい心配です。
- ・ 欧州、ニュージーランドについては、意外に神経質になっていないという印象を受けた。日本は輸入国。受身である為、リスクを軽減する為には現行の検査体制も必要なのではと思った。
- ・ 日本より考えがしっかりしている。というより、日本は考えがその場しのぎのような気がする。
- ・ 消費者とのリスクコミュニケーションについて、より知りたい。海外のと畜マニュアル、ピッシング、SRM除去法。
- ・ 全頭検査ではなくSRMの徹底除去をする。
- ・ 国際基準で良いのではないかと思います。
- ・ 同一方向にすすんでほしい。時間なくて詳しく記入出来なくて残念。
- ・ 欧州における対策が非常に参考になる。BSE発生数、食に対する消費者のレベル、日本よりはるかに高いため。
- ・ 日本の対策は消費者のヒステリックな意見を重視しすぎだと思う。銘柄牛を抱える地方行政があまりにも利己的な対応をすることをゆるしいる方策は理解に苦しむ。食品安全委員会の多いに關することとなるので断固とした方策をお願いしたい。
- ・ 科学的かつ合理的であり、対策の目的もきちんと理解されている(日本はま

だ感情論の世界から脱しきれていない)。

- ・ 疑わしき灰色部分をどう考えるかでかなり違っていると思った。危険データを知った上で食べたいものは食べたいという人々と、少しでも灰色ならば黒と同じと考える国民性の違いということ。日本も今後はデータを開示し、それでも食べたい人はどうぞという、自己責任の時代に入るべきかもしれない。
- ・ 消費者との信頼関係構築の方法にもそれぞれ理由が異なっていると感じた。SRMの除去は厳しい基準が必要という再認識がもてた。
- ・ 何度も指摘されていることだが、日本ではスクリーニングと対策(SRMの除去)が混同して議論されている。検査はあくまでも確認であって予防対策でないこと。それに大きな予算をつぎこんでいることは、諸外国のケースからみても適当とは思えない。この点をもっと消費者団体などへ理解させることが必要。
- ・ 対策に対する考え方は同じ。違いは10/19でも感じたが、日本は説明が慎重すぎて自信なさそうに感じ、かえって国民に不安を与えている。説明を自信を持って明快、平易に行わなければ、今後全国で実施予定のリスクは逆効果となると危惧している。
- ・ 今回の発表でSRMを除けば良いという事が強調されましたが、その信頼性については疑問が残った。
- ・ NZは大変わかりやすいと思う。
- ・ 日本の国民性、けっぺきすぎて茶番ということが暗にわかった。
- ・ 世界の規準として欧州の対策は十分理解できる。日本が何故欧州並みの規準ではなく、独自の(異様な)BSE対策を持ち続けようとするか理解出来ない。
- ・ 改めてBSE検査の限界を含め国民に説明など十分しないと、欧州等でのSRM除去で対策が足りるという流れに、我が国にはいつまでも乗れないのではないかと思う。
- ・ 人への感染予防策と家畜へのまん延対策が信頼できれば問題ないという欧州等の考え方に対し、安全、安心志向から0リスクを求める日本の状況の差を強く感じた。0リスクを求め、科学的根拠を無視した過度の規制により、国費をかけすぎている日本の行政、これを求めているマスクミに対して大きな不満を感じる。
- ・ 欧州、ニュージーランド：実態、データを科学的にとらえ、国全体(国民)もそれに従っている様だ。日本：国は科学的でも、消費者(一部の人)のかたよった考え方で科学的判定の信頼感がうすれている。科学者の中にもかたよった方がいて、消費者を扇動している様にも思える。
- ・ 日本の対策は国民の感情対策の傾向が強く、科学的知見に基づくものではなく、専門家と称する徒もいたずらに国民の不安を煽り、本来のリスクコミュニケーションとはかけ離れたものであった。海外の冷静な対応をもっと参考にすべき。

- ・ 日本と欧米のリスクの感受性の差を感じた。
- ・ 日本は若い牛ならばアメリカから検査なしで受け入れると決定しているが、3人の科学者の論文発表では、4～6才で発生する、BSE検査でマイナスでもBSEではないということは出来ないといっている、日本のとった態度は国民の健康を考えてしていることではない。
- ・ 日本におけるBSE対策は非常に感情的である。全体検査をしなければならぬほど、BSEは人に対する影響は大きいのか、もう少し消費者に対してスイスのように説明・コミュニケーションが必要。日本の食品安全委員会はまだ消費者の信頼を得ていないと思われる。
- ・ 産業に対して、人の衛生に対して、目的をもっと明確に伝えてほしい。金田さんの意見はマスコミがもっととりあげるべき。日本のと場は大丈夫か？米国は？
- ・ 国民性の違いが出ている。日本は完ぺきを求める消費者団体に負け、費用対効果を考えていない。その点、欧州は総合的に考え、他の病気とのバランス（費用の面）をとって対策をとっている。後者の方を充分参考にして欲しい。
- ・ 参加して、93%の遺伝子をもっている日本人の問題だと改めて確信した。全頭検査の継続、さらなる精密な検査が、私たち日本人こそ必要であると。
- ・ 国民性に絡んでくるので言いにくい、メディアの影響もあり、日本で現状の対策を変えてしまうと消費者がかなり動揺すると思われる。この辺では日本は初動で誤ったのでは…。
- ・ どこの国もBSE vCDJ問題が公衆衛生、院内感染に関わる問題であることに「専門家」がふれておらず、心配である。院内感染の専門家もよぶべき。少人数でも発生したら院内感染で拡大する病気です。ニュージーランドからの専門家が上記リスクをご存知ないことからニュージーランド産の畜産品も不安になってきた。全世界で情報を共有すべき。ニュージーランドでは一人vCDJ患者が出ているが、原因は何か？日本では業界が信頼されていないのだからこの状態で検査をやめたら、消費が落ちてますます業界保護のために検査以上の税金が使用されるに決まっている。63%の消費者が米国牛を食べたくないというアンケートもでたそうだが、偽装を考えたら輸出再開されたり、検査をやめたら消費が相当にひえこむと思う。先生方に質問。一頭の牛が牛エキスや牛脂なども含め、何人の口に入るのか？考えたことがあるか？
- ・ 日本と違い科学的だと思う。ごく少数の米国からの輸入再開反対の意見に、日本全体が振り回されている現状は異常である。早く再開すべき！日本でもムダな税金が使われてしまっている。全頭検査をやめるべきだ。感情にまどわされてはならない。
- ・ 神経質になりすぎない事。全頭検査の無意味、税金のムダ使いダメ。
- ・ リスク「0」というのはありえないという事をもっと×10告知すべき！！一般の人は知らないよ！！

- ・ 安全性の担保の状況が見えないのが問題なのか。
- ・ 日本は日本で独自の対策を考えればよいと思う。
- ・ ニュージーランドで何故 B S E が発生してないのか、その原因が分かれば対応策が判明するのではないか。

問 6 本日のような意見交換会にこれまでどれくらい参加したことがありますか。

1) 今回が初めて	20	28.6%
2) これまでに 1 回	8	11.4%
3) これまでに 2 回以上	39	55.7%
4) 無回答	3	4.3%

附問 6 - 1 問 6 で 3) を選択した方にお伺いします。意見交換会のあり方や進め方は改善されてきていると思いますか。

1) 以前よりは改善されてきた	20	51.3%
2) 改善すべき点がある	18	46.1%
3) 無回答	1	2.6%

改善すべき点があるとしたらどのような点か具体的にお書きください。

- ・ 時間の制約がかわっていない。もう少し時間をとった方がよい。
- ・ 意見交換の時間がもっとほしい。日本の消費者の声に外国の専門家が答えるのはいいと思う。
- ・ プレゼンがコンパクトでよかった。パネルディスカッションのテーマがストレートでよかった。
- ・ リスクコミュニケーションといいながら、結局時間切れになってしまったことは非常に残念。机がないので大変不自由です。
- ・ 会場参加者との意見交換の時間がリスコミでは一番大切にされるべき。もっと時間をそのために取るべきです。
- ・ 中途半端な終わり方。
- ・ 討論の場、意見の場を項目ごとに整理して、十分な時間をとってほしい。
- ・ もっと時間をとる。
- ・ 会場の意見、特に消費者サイドの意見を集約の上、反映させるべき。
- ・ 開催日程の知らせ方。
- ・ 提供資料について工夫する必要。世界基準と日本の対策のずれを説明する資料。
- ・ 参加者募集について、もっと一般的な人が参加出来るように研究してもらいたい。
- ・ 一部の消費者団体ばかり、過剰すぎる発言が目立つ。日本の対応は、世界の非常識である。 、 専門委員は、委員にふさわしくない。
- ・ 会場からの発言は質問だけではない。意見を意見としてとり上げるべき。
- ・ 参加し意見を述べる人は、目的が違うと感じる。ここはアシテーションの場

ではないはず。科学的かつ合理的に話を進めるべき。

- ・ 問5と同じ。自信を持って下さい。リスコミはマーケティング手法を、また説明者はプレゼンテーション能力を高めること。これまでの手法は余りにも無勝手流であった様に思う。
- ・ 意見交換の時間が短い。
- ・ 委員会の方向性が全く感じられない。
- ・ O P E N議論になっていない。司会者、議論のリード下手。ミスキャスト。
- ・ せっかく会場でペーパーに記入させて意見を聞いたのであれば、もっと取り入れて欲しかった。
- ・ 政府(科学者含む)は、安全・危険をより判り易くハッキリ言うべきだ。(そのリスクはあっても)ゼロリスクはありえない。
- ・ もっと時間を長くすべき。
- ・ 同時通訳がわかりにくい。ぺらぺらすぎる。
- ・ 特に食品安全委員会のコミュニケーションは高コストに運営されている感が強い。税金なので、もっと質素にやっていたいと思う。
- ・ 広い分野の方の質問や意見を多く取り入れるようになった。
- ・ どうしてもっと意見交換に時間を使わないのか？
- ・ 時間が短すぎ。下準備不足。
- ・ 科学的な議論よりも、安全性の担保をいかに透明にするかが次のステップであると思う。

問7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと(原則公開されていること)	53	75.7%
2) 食品安全委員会ホームページ(委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等)	55	78.6%
3) 食の安全ダイヤル	28	40.0%
4) 食品安全モニター	31	44.3%
5) 食品の安全性に関する用語集	37	52.9%
6) 食品の安全性に関する政府広報	27	38.6%
7) 食品安全(食品安全委員会季刊誌)	29	41.4%
8) その他	2	2.9%
・ リスクコミュニケーション		

附問7 - 1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ H Pで安全ダイヤルに投稿したのに返事がもらえないので不安になる。」う

けとった」という返事でもいいので下さい。

- ・ 意見交換会のお知らせは、ホームページだけでなく新聞、TVなども活用するべき。
- ・ ごくろうさまです。
- ・ 専門委員会の一部の委員は問題あり。会を混乱させ、同じ事をむしかえし、結論を長びかせている。座長、副座長の御苦勞が判る。結論が長びき、国内、世界が困っている事が多いと思う。
- ・ 7) 食品安全の定期購読の申し込み方が判らない。
- ・ TV - CM、街頭ポスター等、もっと×2一般消費者に告知すべき。足りなさすぎる！！
- ・ 季刊誌の配布をもっと幅広く。